

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
1 10:00 -10:30	植田 佑季	関西大学	商店街を核とする減災の試み	商店街 減災			商店街を減災に役立てる事は出来ないか。今回我々が提案する政策は商店街に新たな価値を提示するものである。商店街は古くから日本の消費を支えてきた。しかし年々多くの商店街が大型店舗の出店や後継者不足による空き店舗の増加や来街者の減少が見られている現状にある。そこで東日本大震災を契機に関心の高まった減災と商店街を繋ぎあわせた政策を提示し地域に貢献、また商店街自身の活性化の活路と成りうる事を目指す。	長谷 優果	佛教大学	2階第1会議室
2 10:30 -11:00	藤井 涼太郎	京都橘大学 大学院	電気自動車の普及に向けたインフラ構築 ～私企業と行政が作るインフラシステム～	電気自動車	インフラ整備		環境問題が深刻化する昨今、解決策の一つとして電気自動車が注目されている。しかし、まだ多くの人々の普及しているとは言えない。インフラ整備を中心に電気自動車の有用性を論じていく。	植田 佑季	関西大学	2階第1会議室
3 11:10 -11:40	柏原 結	京都産業大学	サポートおじいちゃん・おばあちゃん	高齢化	待機児童		まだまだ働きたい高齢者が待機児童たちを預かり面倒を見、保育所や幼稚園の代わりをつとめるという制度です。	藤井 涼太郎	京都橘大学 大学院	2階第1会議室
4 11:40 -12:10	茂箆 秀敏	京都府立大学 大学院	木質バイオマスを活用したエネルギー創出による地域活性化策	木質バイオマス	地域自立型エネルギー	地域活性化	地域に豊富に有する資源である木質バイオマスを活用してエネルギーを生み出すことによって、これまで化石燃料代として地域外(海外)に流出している貨幣を地域内で循環させることが可能となるとともに、エネルギーを生み出すために必要となる雇用も新たに創出される。この地域自立型エネルギーへの転換の必要性、有効性と手法について国内及び海外の事例を紹介しながら国や地域が取り組むべき施策・事業等について報告する。	柏原 結	京都産業大学	2階第1会議室
5 13:10 -13:40	長谷 優果	佛教大学	女性の雇用問題における現状と課題	ジェンダー	女性雇用問題	女性労働問題	この発表は現在の女性の雇用や労働状況についての問題を男女雇用機会均等法の歴史とジェンダーの観点から分析を行い、対策を提案することにある。このため、男女雇用機会均等法と女性の労働問題について取り上げている文献をまとめ、男性が育児休暇を取っている夫婦、また、それを取り扱う行政や団体への聞き取りを行い、対策を検討した。	茂箆 秀敏	京都府立大学 大学院	2階第1会議室

第8回政策系大学・大学院研究交流大会 発表者一覧(口頭)

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
6 10:00 -10:30	畑 伸暁	佛教大学	現代の若者の部落に対する意識	現代の若者の部落差別に対する意識			この発表は被差別部落という問題について分析を行い、対策を提言することにある。日本には特定の出自や出身地を理由に結婚や就職などの際に不当な扱いを受けることや差別的言動を受けるという問題がある。時代とともに変化する被差別部落問題に対する人々の意識について、若年層の部落出身者やその親族、また部落解放同盟の関係者への聞き取りを行い、対策を研究した。	宇納 くるみ	京都橘大学	2階第2会議室
7 10:30 -11:00	池田 梨紗	立命館大学	重伝建地区における自治組織向上の必要性	自治組織	地域活性化		今後の日本において全国で大幅な人口減少及び地方での過疎化が急速に進行する事が予測される。その状況下で各市町村が地域活性化を効率よく進めるためにはどのようなことが必要かを考えなければならない。活性化事業等を進めようとした場合、地域を理解し発信する地元住民に親しみのある自治組織が必要だと考える。様々な地域の自治組織を例により良い組織づくりをするにはどうすればよいかを明らかにする。	畑 伸暁	佛教大学	2階第2会議室
8 11:10 -11:40	北 祐樹	龍谷大学	待機児童の解消に向けて	保育ママ			今回、私たちは現在4万人以上もいるとされている待機児童を解決する手段として、保育ママ制度に着目しました。待機児童問題の特徴として決して児童の絶対数が多いがゆえに起きている問題ではなく、都市化や女性の社会の増加によるものであることが原因であることから、機転の利く保育ママを積極的に取り入れることが待機児童解消に繋がるだろうと思っています。	池田 梨紗	立命館大学	2階第2会議室
9 11:40 -12:10	大橋 加津也	佛教大学	いじめと日本の教育問題	学校	学級	教員養成	日本では、いじめを「心理的、物理的攻撃を受けたことにより精神的な苦痛を感じること」(文部科学省)から犯罪に当たる行為まで幅広く定義している。こうした深刻ないじめ問題に対処するためには、教育委員会、学校、学級、教員養成など制度の問題点を明らかにする必要がある。いじめが起きている学級やそこの教員のあり方を中心に、教員を取り巻く環境としての、教育委員会、学校、教員養成の役割と問題点、そして課題を考える。	北 祐樹	龍谷大学	2階第2会議室
10 13:10 -13:40	瀧下 史希	龍谷大学	“介護の社会化と”WLCB	福祉			私たちは、日頃から福祉・雇用に関する様々な問題を中心に研究しています。それをもとに、今回の交流会では、現代社会における福祉・雇用の問題点と、今後の可能性について言及していきたいと思えます。	大橋 加津也	佛教大学	2階第2会議室
11 13:40 -14:10	宇納 くるみ	京都橘大学	京野菜のマーケティングとブランド力	京野菜	ブランド	地域	寺や神社で名高い観光都市京都には、伝統的な京野菜が存在する。京都では、観光客は京野菜を食材とした料理を楽しむことができ、地元住民は身近に京野菜を購入できる。我々は、この京野菜にスポットをあてて、京のふるさと産品協会を対象に、その流通やマーケティングについてインタビュー調査を実施した。その調査結果から、京野菜は独自のマーケティングでブランド力を築きあげてきたことが明らかになった。	瀧下 史希	龍谷大学	2階第2会議室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
12 10:00 -10:30	前田 朗寿	京都産業大学	災害時に強い地域コミュニティー	学生	防災	地域連携	地震や火災といった災害が多い日本。そんな日本は、今、高齢化時代に突入し、災害時に社会的弱者をどう救うかを考えることが重要となってきました。そこで災害時は、若者の力が大切であると考え、大学生に焦点を当てて考えることにしました。学生への防災の意識調査や、現役の消防職員の方に今の防災のあり方をお聞きし、それをもとに本当に災害に強いまちづくりを考えました。	北村 公一	龍谷大学	2階第3会議室
13 10:30 -11:00	岡崎 大司朗	佛教大学	地域社会における伝統行事と観光	左大文字送り火	伝統の継承	歩くまち京都	2008年の年間入浴観光客数は、5,000万人を突破した。しかし、現在の伝統と観光の関係は理想的なのだろうか。私たちは、京都の地域社会の代表的な伝統行事の一つである左大文字送り火を事例として分析する。また、それを支える地域住民・観光客・行政のそれぞれの立場を調査し、考察する。観光客・地域住民へのアンケートや保存会・行政へのインタビューを通して、理想的な伝統と観光の両立についての政策を提言する。	前田 朗寿	京都産業大学	2階第3会議室
14 11:10 -11:40	奥村 貴博	京都文教大学	京都市のごみの減量化について	一般廃棄物	有料化		ごみの減量化について、京都市はごみの減量には成功しているが、しかし、長期的に見た場合、必ずしも成功しているとは言いきれない。それを踏まえて、成功している都市の事例と失敗している都市の事例をあげ、京都市と比較して、長期的に減量を進めていくための政策を提言する。同時に有料化につけ加えて、必要とされる新たな取り組みを考える。	岡崎 大司朗	佛教大学	2階第3会議室
15 11:40 -12:10	西村 祐沙	同志社大学	芸術祭における地域コミュニティ活性化について	文化政策	まちづくり		近年、「瀬戸内国際芸術祭」「越後妻有アートトリエンナーレ」「別府現代芸術フェスティバル」といった大規模な芸術祭が日本各地で開催されている。地方都市で行われる芸術祭では、アートを鑑賞する観光客・招聘されたアーティスト・開催地域の住民などといった異なる立場の人間が集うことが特徴だ。アートを仲立ちとした新たなコミュニティが、既存の地域コミュニティにどのような影響を及ぼすのかを検証した。	奥村 貴博	京都文教大学	2階第3会議室
16 13:10 -13:40	榛葉 憲太郎	佛教大学	日本のハイブリッド車の国際競争力	次世代自動車戦略	日本の技術力	販売力	日本の自動車産業の国際競争力の実態と次世代自動車戦略をハイブリット車を中心に調査する。近年、自動車産業も環境問題を視野に入れることが当然のことになっている。今回は、世界の自動車市場であるアメリカの例を取り入れることによって、日本におけるハイブリット車の技術力や販売力の実態について考える。また、日本政府の次世代自動車戦略を踏まえ、日本の自動車産業の販売力向上のための課題を模索する。	西村 祐沙	同志社大学	2階第3会議室
17 13:40 -14:10	北村 公一	龍谷大学	過疎のイメージを変える創造的過疎	中山間地域	創造的過疎	町づくり	日本で過疎の問題が生じて久しい。特に人口の流出に歯止めが掛からない中山間地域などでは、限界集落と言われるような状態に陥ってしまう自治体が全国各地で増加している。そのような中、徳島県神山町では適切な将来目標に向かってポジティブな過疎化を実現しようという「創造的過疎」による地域の再生を試みている。今回はそんな神山町のまちづくりの事例を中心に、日本の過疎問題について考察したい。	榛葉 憲太郎	佛教大学	2階第3会議室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
18 10:00 -10:30	杉田 侑里恵	佛教大学	学歴と格差	学歴	格差		この発表は親から受け継がれる子ども間の格差について、特に学歴との関連から見える問題について分析を行い、対策を提案することにある。このため、このことに関連する格差についての文献をまとめ格差の現状を概観し、その人たちの抱える問題について学歴の異なる社会人への聞き取りや、行政への聞き取りを行った。そのうえでこの問題に対する対策を検討した。	乗末 春香	龍谷大学	4階第2講義室
19 10:30 -11:00	浅田 修志	立命館大学	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州観光村の“持続可能な発展”につながる自治のあり方について	インドネシア ジョグジャカルタ特別州	観光村 (desawisata)	持続可能性	本研究の対象は経済成長が著しいインドネシアの観光村である。特に、本研究では伝統的な文化を資源に魅力的な観光都市を形成していることから、京都市と姉妹都市でもあるジョグジャカルタ特別州における観光村を対象とする。観光の歴史では高度経済成長と共に1960年代からマスツーリズムが日本をはじめ、先進国で発生したが、1970年代に犯罪などのモラルの問題、公害などの環境問題が観光地で見られ、マスツーリズムの負の影響が顕在した。このような歴史的背景から、現代急速に経済成長を遂げているインドネシアの観光地に注目し、その現状を明らかにする。特に村の資源を活かして着地型観光を進めている観光村にフィールドを絞り、その観光村の持続可能性を、観光村運営者インタビュー、住民アンケート、行政資料、ガジャマダ大学教授へのインタビュー等から明らかにしていく。	杉田 侑里恵	佛教大学	4階第2講義室
20 11:10 -11:40	円山 尚平	京都文教大学	通学路における児童の安全確保について	通学路	物理的対策	政府の責任	日本の通学路では十分な物理的な安全対策が取られてこなかった。その理由は、物理的対策により発生する交通渋滞や細心の安全運転技術を嫌がるドライバーの反対にある。しかし、より大きな責任を担うのは政府である。というのは政府こそが交通安全のための法整備や、物理的対策などの基本計画の策定と実施に専ら責任を担うからである。この政府の責任を主として交通安全対策基本法や基本計画を分析することによって明らかにする。	浅田 修志	立命館大学	4階第2講義室
21 11:40 -12:10	中島 智	同志社大学大学院	堅田地域におけるまちづくり観光の意義と課題	協育	まちづくり観光	学生	滋賀県大津市堅田地域では、地域の歴史や文化を資源として活用するまちづくりが、1989年から市民団体「湖族の郷実行委員会」を中心に展開されてきた。本報告では近年、近接する芸術大学の学生が発案し、地域との協働によって実施された「湖族の郷アートプロジェクト」に着目し、その地域社会にとっての意味と意義を検証する。あわせて、その成果を踏まえて堅田におけるこれからの観光政策の方向性について提言を行う。	円山 尚平	京都文教大学	4階第2講義室
22 13:10 -13:40	瓜生 彩夏	立命館大学	既存都市でのコンパクトシティ政策の実現性	コンパクトシティ	環境	実現性	今、日本は、経済状況も低迷し、政治事情も良い状況ではない。東日本大震災を機にエネルギーの問題やあらゆる問題が浮上した。そうした様々な問題の解決のカギを握る一つがコンパクトシティだと考える。コンパクトシティはその名の通り様々な機能をコンパクトに備えた都市である。今回は中でも環境面の切り口からコンパクトシティを捉え、その実情や問題点を明らかにする。そして今回は京都市でのコンパクトシティの実現性を検証したい。	中島 智	同志社大学大学院	4階第2講義室
23 13:40 -14:10	乗末 春香	龍谷大学	NPOが公共を担うための6つの課題	NPO			今回の発表では、「なぜNPOは社会を変えられないのか」という題材で提言をします。ゼミの研究分野であるNPOについてこれまで学んできたことや実体験から認識した課題(認知度、信頼度の薄さなど)を克服することで、今後よりNPOが公共課題を担える存在へ発展していくのではないかとこの研究です。	瓜生 彩夏	立命館大学	4階第2講義室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
24 10:00 -10:30	高橋 一誠	佛教大学	同性愛者が 感じている問題	同性愛者			この発表は同性愛者に対する差別・偏見に関する問題について分析し、改善策を提案することにある。先行研究において現代日本では「同性愛者」に対して大衆はどのような価値観を持っているのか文献をもとに分析した。これをもとに当事者や行政にインタビューを行い「同性愛者」と「社会」の志向にどのようなギャップが存在するか明らかにした。そしてその原因を突き止め、よりよい共生社会を実現させるための対策を考察した。	久山 莉穂	京都橘大学	4階第3講義室
25 10:30 -11:00	向井 大志	佛教大学	嵐山の安全性と観光	観光	防災	安全対策	京都の嵐山は美しい景観を保全しているため毎年多くの観光客が訪れているが、現在では景観を重視していることから、自然の中に人工物を設置してしまう防災対策や障害者のためのバリアフリーがあまりなされていない。春や秋のシーズンには特に多くの観光客が訪れるため、この問題の解決が重要となる。防災などの安全性が問われる中で安全に観光を行うためには今後の嵐山はどのような取り組みが必要か調査・提案する。	高橋 一誠	佛教大学	4階第3講義室
26 11:10 -11:40	角田 正冬	立命館大学	店舗集積による定住促進の可能性	熊川宿	イベント型観光	空き家	福井県若狭町の熊川宿はかつての宿場町としてのまちなみが保たれた地区であり、重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている。しかし、人口減少や若年層流出に伴って発生する空き家は増加しており、熊川宿での空き家問題は深刻なものとなっている。そこで本研究では、熊川宿で空き家を活用した定住者を増やすため、まずは多くの人に熊川宿を知ってもらい、実際に足を運んでもらうことが必要ではないかと考えた。そのために熊川を観光地として発展させることが一つの手段であるが、伝建地区の観光地化には懸念が生じる。そこで、空き家を活用した日時限定のイベント型観光の開催を増やすことを提案する。これを行うことによって、観光客が熊川に訪れる機会が増え、また空き家に対しても興味を持ってくれるのではないかと考える。また、住民側の意識の向上にもつながり、空き家を提供してくれる所有者の増加も期待できるのではないだろうか。本研究では、イベント型観光など開催し空き家の定住促進に積極的な奈良県橿原市今井町の事例を用いて、熊川においてはどのようなイベントの開催が地域内外ともに効果的であるかを研究していく。またそれとともに、アンケート調査やアリング調査を通じて熊川の住民の観光地化に対する意識を明らかにしていく。	向井 大志	佛教大学	4階第3講義室
27 11:40 -12:10	田中 祐	佛教大学	虐待としつけの 違い	児童	虐待	しつけ	この発表は児童虐待という問題について分析を行い対策を提案することにある。現代社会において児童虐待は大きな問題となっている。平成18年度中に児童相談所が対応した相談のうち被虐待者数の年齢別に見ると、「0～3歳未満」の増加率は前年と比べ15.1%となり、年々増加している。私たちは虐待としつけの違いなどの文献をまとめ、児童相談所への聞き取りを行い、対策を研究した。	角田 正冬	立命館大学	4階第3講義室
28 13:10 -13:40	久山 莉穂	京都橘大学	震災ボランティアの実態とあり方	被災地	ボランティア	参与観察	東日本大震災後、多くの人々が被災地でボランティア活動に参加している。我々は、震災ボランティアに対する意識や目的、また学生の参加度や意欲などの現状を明らかにするために、震災ボランティアの参与観察ならびにアンケート調査を実施した。本調査結果から、ボランティア参加者と現地の方の求めている支援との違いを明らかにした上で、よりよいボランティアのあり方について考察する。	田中 祐	佛教大学	4階第3講義室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
29 10:00 -10:30	中原 岳	立命館大学	“歴史的空き家”の宿泊施設化における課題のクリアと持続的発展を目指して	空き家	旅館業法	規制緩和	地域に残る町家や屋敷を宿泊施設化する動きが出てきている。しかし、改修費用の高さや集客などが課題になっている。「貴重な空き家」を宿泊施設としてどう保全し、活用していくかが問われている。 本研究では兵庫県豊岡市、広島県福山市、福井県若狭町の3事例をもとにこうした課題を分析し、持続可能性を探る。その上で調査地などに対し、歴史的空き家を宿泊施設化し、継続的かつ発展的に運営していくための示唆を与えたい。	堀山 敦司	佛教大学	4階第4講義室
30 10:30 -11:00	井本 史織	関西大学	地域社会における健康の創造	健康	農業	食育	少子高齢化が深刻になるなか、私たちは何らかの対応に迫られている。そこで私たちのグループでは適度な運動と食事をするというシンプルかつ根本的な部分に着目した。個人で継続的な活動を行うことは決して容易でないため、少子高齢化や社会構造の変化に伴って地域とのつながりが薄れた現代だからこそ、地域住民が互いに顔の見えるかたちで日常生活をおくり、集団で健康に向けた取り組みを行うことができるような都市を目指す。	中原 岳	立命館大学	4階第4講義室
31 11:10 -11:40	石村 雅弘	同志社大学	住民の意思決定への参画	行政	SNS	パブリックコメント	行政のSNSの利用が広がっている反面効果が上がっていない現状がある。またパブリックコメントの募集などで行政に大きな課題がある。これらの現状と課題そして今後の展望などについて議論する。	井本 史織	関西大学	4階第4講義室
32 11:40 -12:10	竹山 和弘	京都橘大学大学院	住民主導型まちづくりの実現に向けた諸課題の研究	エリアマネジメント	景観協議会	景観まちづくり	本稿では、住民参加型まちづくり手法として注目されるエリアマネジメント手法に関して、この手法の導入に向けた方法論について事例研究を通じて論考する。事例として取り上げる滋賀県栗東市安養寺地区では、都市計画上の課題対応に向け、景観まちづくりを通じたエリアマネジメント手法の導入を目指すなかで、中心市街地の活性化や地域コミュニティの醸成、テーマ型コミュニティの育成など、多様な地域課題への対応を目指しており、本事例から一般化し得る事象を検証し、論考する。	石村 雅弘	同志社大学	4階第4講義室
33 13:10 -13:40	松浦 友亮	立命館大学	ソーシャルキャピタルと都市政策	持続可能な都市	内発的発展	ソーシャルキャピタル	飯田市は、内発的発展のための個別施策において大きな成果を上げており、「持続可能な都市」を実現するための行財政政策のあり方を考えるうえで最も適した都市であるといえる。その飯田市における内発的発展のための取り組みと、ソーシャルキャピタルがどのように「持続可能な都市」づくりに寄与しているかという点について明らかにしていく。	竹山 和弘	京都橘大学大学院	4階第4講義室
34 13:40 -14:10	堀山 敦司	佛教大学	いじめ認識の相似	いじめ	いじり		この発表はいじめという問題について分析を行い対策を提案することにある。大津の事件以降、いじめはますますニュースに大きく取り上げられる問題である。このため先行研究をまとめ教育現場におけるいじめといじりの違いを明確にするとともに、当事者や行政担当者への聞き取りを行い、対策を検討した。	松浦 友亮	立命館大学	4階第4講義室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
35 10:00 -10:30	大谷 優一	京都橘大学	若者と高齢者の食生活の差異	食生活	高齢者	若者	昨今、日本人のライフスタイルの多様化が進み、食生活においても、外国食の増加によって多様化が進んでいると考えられる。我々は、世代間で、食事の嗜好や多様化の程度に違いがあるかどうかを明らかにするために、高齢者と若者を対象にアンケート調査を行った。調査結果から世代間の食生活の共通性や差異を分析するとともに、日本の食文化を後世に残す方法を考察していきたい。	羽尻 有希	佛教大学	5階2-4演習室
36 10:30 -11:00	伊藤 哲史	佛教大学	“都会の過疎”の進行と学校統廃合による地域コミュニティの変化	コミュニティ	学校		少子高齢化の進行と人口減少による“都会の過疎”化が進む東山区。区内では5つの小学校と2つの中学校が1つに整理・統合された。明治期の学制発布以前に町衆によって創設され、単なる教育の場に留まらず、地域の自治活動の中核としての役割も担ってきた学校。“都会の過疎”化によりコミュニティの希薄化が危惧される東山区において、学校統廃合がもたらす影響を調査し、地域社会の維持のためにこれから何が必要かを提案する。	大谷 優一	京都橘大学	5階2-4演習室
37 11:10 -11:40	加藤 結子	立命館大学	アソシエーションから見るフランスの屋外広告物規制	フランス	市民と屋外広告物規制		私たちは、都市空間の再生を図る様々な景観保全政策の中で、屋外広告物規制に観点を置くことにした。景観保全政策が先行しているフランスでの現地調査を行い、フランスでは行政からの規制以外に、市民団体の活動が景観保護に大きな役割をはたしていると感じた。ここ京都でも景観保全政策をおこなっているが、その規制はどのようなものか、また住民参加に関して興味を持った。規制と市民活動を中心に、発表を行う。	伊藤 哲史	佛教大学	5階2-4演習室
38 11:40 -12:10	塚本 由貴	佛教大学	宮津カレー焼きそば調査ファイル	京都府宮津市	カレー焼きそば	地域	京都府宮津市には、熱狂的ファンに支持されながらも提供店の閉店に伴い「絶滅」した「カレー焼きそば」という伝説のメニューが存在していた。その復活や普及を目指し、地域の有志により結成されたのが「カレー焼きそばズ」(略称「ズ」)である。「ズ」の特徴は、何よりメンバー自らが活動を楽しんでいること。本報告では、「ズ」の活動と、そのノリにあやかって少しお手伝いをさせていただいた私たちの活動の一端を発表したい。	加藤 結子	立命館大学	5階2-4演習室
39 13:10 -13:40	上口 知晃	立命館大学	都市における路面交通の有用性に関する考察	交通	都市空間		現代の都市において、都市内の交通環境というものは大きく変化してきた。それは新交通と呼ばれるものが登場したということもあるが、モータリゼーションの波により様々な路面交通が廃止していった経緯が存在する。現代の都市空間において、それらの路面交通は果たして本当に時代に合わないものであるのか、それとも都市空間を形成するにあたって有用なのか。日本各地にある実際の事例などから考察する。	塚本 由貴	佛教大学	5階2-4演習室
40 13:40 -14:10	羽尻 有希	佛教大学	空き家の土地利用と地域再生	人口減少	空き家	地域再生	総務省の調査によると、全国の空き家は2008年時点で757万戸に昇りこの20年間で倍増している。空き家は防犯上の問題を伴う。加えてこれは人口減少、すなわち過疎の象徴でもあるのだ。このため空き家への対処が問題となっている。私たちは空き家をどう活用するかが地域再生にとって重要なカギになるかもしれないと考え、地域再生を可能とする空き家の活用について調査する。	上口 知晃	立命館大学	5階2-4演習室

時間帯	氏名	大学名	題目	keyword1	keyword2	keyword3	発表概要	指定質問者	指定質問者大学	会場
41 10:00 -10:30	天野 力允	京都大学 大学院	スマート観光 都市・京都	交通	IT活用		京都市は毎年5000万人の観光客が訪れる一大観光都市となった。一方で観光シーズンにおいては、一部の公共交通機関に利用者が集中してしまう。そのため市民・観光客の円滑な移動に困難が生じ、問題となっている。今回は①IT技術を活用し適切な情報提供を行うこと、②交通手段の選択肢を増やすことで、その解決を図りたい。こうした取組みを通じ、市民生活との両立を図りながら京都市における観光の質を高めることを目指す。	太田 有梨沙	佛教大学	5階第1講義室
42 10:30 -11:00	渡辺 翔太	立命館大学	今後の高齢 者向け住宅の 在り方について	高齢者向け 住宅	高齢化社 会		近年、日本では65歳以上の高齢者の数が年々増加している。国勢調査の結果、2007年に高齢化率は21.5%に達し、日本は超高齢社会となった。高齢者が増加の一途をたどるのに対し、その受け皿となる高齢者向け住宅の数は圧倒的に不足している。この現状を、既存の高齢者向け住宅の見直し、利用者にとってより良いと思われる高齢者向け住宅の在り方、供給という観点から考察していく。	天野 力允	京都大学 大学院	5階第1講義室
43 11:10 -11:40	石山 大晃	立命館大学	フランスの既 成市街地整 備事業にみる 都市環境改 善策の展望	公共政策	市街地		現在日本では、人口減少とともに管理の行き届かない空き家の問題が深刻となりつつある。このような廃屋の増加問題は社会的なリスクを増加させるため、既成市街地の整備による解決が急がれる。そこで、問題解決にあたり公共政策がどのような役割を果たすことが可能であるのか検討する必要がある。本研究は、フランスにおける既成市街地整備の制度、事業の検討を行い日本へ示唆を得ることを目的とする。	渡辺 翔太	立命館大学	5階第1講義室
44 11:40 -12:10	川部 朋代	京都橘大学	ゆるキャラに 対する評価と その効果	ゆるキャラ	認知度	好感度	近年、各地域で多くのゆるキャラが生み出されている。「ゆるキャラグランプリ」の記名投票で、2010年に「ひこにゃん」が1位、2011年には「くまモン」が1位に輝いている。本研究では、これらの2種類の代表的な人気のキャラクターに焦点を当て、それぞれの認知度、好感度などについてアンケート調査を実施し、その結果から、ゆるキャラの効果について考察する。	石山 大晃	立命館大学	5階第1講義室
45 13:10 -13:40	横田 直人	佛教大学	京都における 伝統行事の 今後	地蔵盆	地域社会	世代間交流	京都には地蔵盆という行事が受け継がれている。地蔵盆は伝統行事としてだけでなく、子供の教育や地域交流に関わる行事としても存在している。人口減少や少子高齢化が問題になっている京都の中で、伝統行事としての地蔵盆の役割・意味とはどのようなものか。 北区紫野金鶏町と伏見区 榊形町の地蔵盆の比較研究により、地域住民の行事参加、世代を超えた交流、伝統行事の継承に関する政策を提言する。	川部 朋代	京都橘大学	5階第1講義室
46 13:40 -14:10	太田 有梨沙	佛教大学	仁和学区の 交通安全を守 る地域と学校 の連携	交通安全	地域		今年の春発生した祇園の事故や亀岡市の児童を巻き込んだ事故などを皮切りに、全国で悲惨な事故が相次いで発生し、交通安全に関心が高まった。そこで文部科学、国土交通、警察の3省庁は、全国の通学路の安全点検を行い、学校側に危険箇所の改善対策を行うよう求めている。しかし、児童の安全を守ることができるのは、このような国の対策だけではない。本発表では、仁和学区で行われている地域主導の取り組みについて取り上げる。	横田 直人	佛教大学	5階第1講義室